安芸の宮島「厳島神社の大鳥居」

慶應義塾大学　広島通信三田会報

みやじま

第５９号

２０２０年１２月

慶應義塾大学　広島通信三田会

新型コロナウイルスが発生してから約１年、中々しぶといですね。　世界中で拡大し続けております。新型コロナウイルスは怖い、しかし油断せずしっかり予防対策をすれば大丈夫、と政府、専門家は言っています。

塾でも３密を避けるため、卒業式、入学式、卒業〇〇年式典、三田会活動（県単位の行事やブロック合同通信三田会、全国通信三田会、連合三田会大会など)、三田会の原点で最大の楽しみである集い語り、飲み食いする行事やイベントが全て中止になりました。各地に散らばっている塾員・友が、今元気でいるか、どうしているか、気になるところです。紙上を通じて近況や今の思いなど投稿してもらいました。

人生は「上り坂、下り坂、まさか」無常の世に生きている私達、「塞翁が馬」でもあります。希望を持ち、生きていることに感謝して今日１日を大事に暮らしていきましょう。

【目　次】

・２０２０年を振り返り考える ・・・・　瀬戸田 誠　　平成元（1989）経卒　Ｐ２
・連続テレビ小説「エール」を見て ・・　新田 政丸　　昭和 33（1958）経卒　Ｐ３～４
・人生は戦いなのか ・・・・・・・・・・　河村 保　　昭和 52（1977）経卒　Ｐ５～６
・推しメンは息子!! ・・・・・・・・・・　小林 節子　　平成 17（2005）経卒　Ｐ７～８
・世界情勢私見 ・・・・・・・・・・・・　楢原 宏明　　平成 28（2016）文卒　Ｐ９
・人生は塞翁が馬 ・・・・・・・・・・・　迫田 勲　　昭和 43（1968）法卒　Ｐ11～13

・[特別寄稿] 広島慶友会の近況と今思うこと　松岡 和弘　　塾生(広島慶友会長）Ｐ14

２０２０年を振り返り考える

瀬戸田　誠　　平成元年（１９８９年）経卒

昨年末より中国･武漢発のコロナ感染が、世界中に蔓延し、大きな社会問題となっています。

感染拡大により三田会活動は休止状態に。大学キャンパスへの立ち入り禁止、大学教育は「オンライン授業」に。そして通信教育も、科目試験はレポートやオンライン試験に、スクーリングも休止と、今までには考えられなかった状況が現在も続いています。幸い、この中四国地区は大きな感染拡大も無く、今のところ感染は防止されています。このまま拡大を抑え込みたいものです。

拡大原因は、治療薬(ワクチン等)が無いことにより、危機感が必要以上に蔓延していることではないでしょうか。一般市民も、報道数字に惑わされている気がします。感染累計数字は、余り意味を持たないと思います。何故なら、その数字に既に完治ししている人も永遠に含まれるからです。あくまでも現在の状態を客観的に判断する必要があります。今は、原因の根源を封じ込めることで拡大は防げます。全ての国民が、感染源に近寄らない、身を置かない、クラスター発生を未然に防ぐ等々、自己管理をしっかりやることが今後益々必要となるでしょう。

治療薬(ワクチン等)さえ出来ればインフルエンザ流行と同等であると思います。生活習慣は確実に変化するでしょうが、必要以上の防備は不要です。「あと少しの辛抱」と期待していることは楽観的でしょうか？　悪いニュースばかりでは無いです！

過日の中国新聞朝刊に、慶應義塾大学元通信教育部長の「村井 実」名誉教授が、母校の広島大学より、「ペスタロッチ賞」受賞との報道がされました。　慶應義塾創立記念講演の際には、広島国際会議場で記念講演をされました。また、２０２３年には、慶應義塾大学と東京歯科大学が合併し慶應義塾傘下に。これで、医学関係は、医学部、薬学部、看護学部、歯学部と名実共に総合学部となり、私学の雄となります。

来年こそは、従来通りの三田会活動、教育活動が出来るよう祈念したい。

連続テレビ小説「エール」を見て

新田　政丸　　昭和３３年（１９５８年）経卒

ご無沙汰致しております。新型コロナウイルスの影響で一層疎遠に拍車がかかってきました。皆様お元気ですか。私も明けて１月１５日には９５歳になりますが、妻（９１歳）と共々、お陰様で元気でボツボツやっております。

迫田会長のお便りをいただいて、久し振りに近況をお届け致します。

相変わらずの日課で、テレビ好きな番組の録画、新聞の切り抜きによるスクラップブックの製作管理、そして週３日のクアハウスでの水中散歩です。また、１０アール程の野菜畑での農作業です。テレビ番組の録画は、平成１２年（２０００年）から始めましたが、現在、デイスク数３０００枚となりました。映画・音楽・スポーツ・政治経済社会・自然・文化等に分類しておりますが、いずれも１枚約１２時間ですから、延時間数約３万６０００時間となります。今後毎日、1日１２時間見るとして８年余りかかります。妻が時折、「あなたは録画テープを何時まで見るのですか」と聞きますが、恐らくは大半は見ないままであの世行きになるでしょう。しかし、この作業は少しは頭に体操になっているかも知れません。

さて、今春３月３０日からＮＨＫ連続テレビ小説「エール」の放送が始まりました。御覧になった方も多いと思いますが、作曲家・古関裕而先生の伝記的な内容でもありました。コロナウイルスの関係で６月末から中断して１１月２８日終了しました。

私は音楽を聴くことが好きで歌謡曲、民謡、特に懐かしのメロディーには目がありません。古関裕而先生が、昭和の著名な作曲家であることは認識しておりましたが、「エール」の放送で色々新しい発見があり感動しました。音丸の「船頭可愛や」が、古関裕而先生の作曲で最初のヒット曲と言うことも新鮮でしたし、戦時歌謡、露営の歌「愛国の花」・「暁に祈る」・「海の進軍」・「若鷲の歌」・「ラバウル海軍航空隊」など、戦中派の私にとっては、小学生の頃から口ずさんでいたものあります。私は海軍飛行予科練習生、所謂“予科練”として、鹿児島海軍航空隊で約１年半猛烈な訓練を経て終戦を迎えましたが、入隊のきっかっけは霧島昇歌う「若鷲の歌」でした。

戦後も、「夢淡き東京」・「とんがり帽子（鐘の鳴る丘）」・「長崎の鐘」・「イヨマンテの夜」・「君の名」など、数々のヒット曲を出されましたが、「エール」の中で一番印象的だったのは、当時、戦時歌謡の第一人者として讃えられ、戦地の多くの兵隊さん達や、戦後の多くの人々に勇気と励ましを与えながらも、結果は多くの犠牲者を作り、太平洋戦争の悲惨な結末に強い衝撃を受け、終戦後の深い悩みの中で、またそれを乗り越え、歌を通じて戦後復興に尽くしていこうというくだりでした。

結果、昭和２４年の古関作品で、藤山一郎の名唱で知られる「長崎の鐘」が生まれました。この曲は、狂乱怒涛の時代を生きた人間の鎮魂と祈りを深く表現し、昭和の聖歌といわれている曲であります。

さて、「エール」の中で慶應に関わること言えば、昭和６年の古関作品「早稲田大学応援歌～紺碧の空～」の作曲があります。これは当時、東京６大学野球の慶早戦において、慶應の名応援歌“若き血”の為に、早稲田はこの応援歌に圧倒されて、長期に亘り早稲田の連敗が続いており、これを挽回するため、早稲田の応援団が古関に日参して、出来あがったのがこの曲です。その後、慶應にも「我ぞ覇者」という応援歌が、藤浦恍作詞で、古関祐而先生が作曲しております。このくだりを書けば長くなりますので、この辺りで打ち切ります。

最後の集大成として作曲されたのが、昭和３９年１０月１０日開催の、東京オリンピックの入場曲として演奏された「東京オリンピック・マーチ」と言われております。昭和の名作曲家古賀政男と並び称され、古関裕而先生は“テーマの帝王”とも呼ばれているように、代表的なものは「オリンピック・テーマ」の他に、ＮＨＫスポーツ放送テーマ「スポーツショー行進曲」全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」などでしょう。

私はテレビの宣伝、新聞広告などを見て、生誕１００年記念・国民的作曲家「古関裕而全集」を購入しました。古関裕而先生は、生涯約５千５百曲を作曲したと云われておりますが、この内の名曲１３９曲がＣＤで納められて、これを聞きながら楽しんでおります。朝食前には「スポーツショー行進曲」「栄冠は君に輝く」を聞いて元気をもらっています。古関裕而先生の曲は人生の応援歌と言われている所以です。クアハウスのプール歩行は約３０分ですが、「栄冠は君に輝く」を口の中で歌いながら歩きます。漸く覚えました。頭と足の両方の体操です。コロナウイルスは第３波を迎えたと云われています。頑張ってもゼロにはなりますまいが、その内良い薬もできてくるでしょう。お互い気をつけながらその日まで頑張りましょう。

思いのまま駄弁を労しました。お許し下さい。お元気で。

人生は戦いなのか

河村　　保　　昭和５２年（1977 年）経卒

新型コロナとの戦いが、益々厳しくなった。戦いであるから完全に制圧したい。過去に感染症の大流行を人類は経験してきた。だからもっと効果的な叡智ある対策があるのではないか。行政の責任者の無責任な態度は、情けない。また、専門家というのも言われる内容がハッキリしない。的確な情報は余りにも少ない。もっと PCR 検査もやるべきではないのか。

総理大臣や東京都知事・大阪府知事など、権限も資金も持ちながら、的確な政策が無い。記者会見を開き『感染者数の発表』『自粛してください』そして『プラカード掲揚』である。その姿は誇らしげでさえある。感染が止まらない事への責任者としてのお詫び心は微塵もない。

専門家はもっと新型コロナに対する実証実験などして公表すべきだ。遅れて、コンピューターによる飛沫拡散の実証がされていたが、もっと主体になって、新型コロナに対する研究をお金をかけてやるべきだ。日光に当てるなどでコロナ菌はどの位で死滅するだろうか。鼻を出した状態でも、マスクの効果は有るのではないか。自分が掛かる事はあっても、他人へ移すことは殆ど無いのではないか。呼吸器に疾患のある私は息苦しくて耐えにくい。

国民個人へ 10 万円配られても、コロナに対する実態を調べるわけにはいかない。「37.5 度以上 4 日間続いたら、」検査します。とんでもない話だ。「赤ちゃんにはマスクはしない」方が良い。これも初めから注意事項を明確にすべきだった。不要に呼吸を制限すると、酸素量が確保できない。血中酸素量が少なくなって障害をおこす。死ぬまでには至らなくても、多少なりとも不具合が起こる。その責任は知識の少ない両親だ。

要は、全て戦いなのだ。「自分で自分を守る」これが基本のようだ。コロナだけではない。全てがそうだ。単に「スポーツのように競争」をしている訳ではなさそうだ。選挙では、いつも戦いだと多くの人が叫ぶ。相手を制圧したい。相手を殺すわけにはいかないが、厳しい状況にあるのではないか。

リーダーになる人は、聖人君主で立派な人と思ってきたが、必ずしもそうではない。学生時代から、立候補制で選ばれることに慣れてきた。多くの人に推薦されて候補者が出るわけではない。『俺がやる』と言って立候補して、『アメリカファースト』。『都民ファースト』と言って、利益供与まがいの政策を訴えると人気が出る。実際に社会は利益共存であって、選挙でも相手を叩きのめして、当選し権力を得るのである。政治団体や宗教団体の結束は凄い。政権を得たものは、味方の団体の者を重用して組織を強くする。政権与党として、補助金などの政策を餌に企業なども支配する。工業大学の文化祭に行って見て驚いた。宗教団体のブースが設けられていて、若者がたむろしていた。

菅総理の日本学術会議の委員任命拒否も、自分の考えに反対する者は、許さない。内閣の調査機関が個人の行動(思想信条)を監視しているのだ。 安倍首相へ忖度した人は、世間から非難されても、時が過ぎれば栄転される。他の人も、忖度する。強い政権だから、頼りになるのだ。

話題の国会議員河井夫妻も、力が有るからお金も配布できたのだろう。報道によると「安倍首相から、党の支援金が普通議員の３倍も払われた。同区での自民党代議士溝手氏は、かつて安倍さんを諌めたことが有ったので、落選してもかまわない」との背景があったと聞く。

恐ろしい世の中だ。その中を生きているのだと、コロナとの戦いの中で考えさせられた。

◎ わが家の対策【小林節子の例】

ポストにマスクが届いた。ところが、主人のサイズではなかった。

すると彼は、呉の大和ミュージアムで買った、手ぬぐいを出してきた。「これで、西村大臣風のマスクを作って欲しい。」とのこと。特に強く要望されたのは、「口元に戦艦！」だった。

早速ネットで作り方を検索、型紙をダウンロード、印刷。息子の PTA 活動用に購入していた、当時 1 万円程の小さなおもちゃのようなミシンを使用。

結局、マスクは３個完成。少々大きめサイズ。↓

主人はとても喜んで、こっそり見せびらかしながら(?)、今も大事に使ってくれている、はず、、、？(笑)

一般的に会社工場内は、指定マスクの支給も多く、プライベートの時に、よく手作り風マスクを使う、という話を聞かされ、今でも私は、時々無料奉仕させられている。(笑)

推しメンは息子!!

小林　節子　　平成１７年（２００５年）経卒

一体なんちゅう年なんだ？　まだ渦中にいると思っているので、全ての起こりうる出来事が、夢か現か理解していませんが、近況報告です。

最近のことだけに限定します。11 月になった途端、義母が逝去しました。7 月に入院して以来、面会できないままでした。私自身も夏から体調が悪く、義母のことでかなり落ち込んでしまい、何にもできませんでした。このご時世、家族葬となり、息子(商 3 年)を帰省させました。息子とは 3 月以来の再会でした。

親(私)の予定では、商学部は 3 年から三田キャンパスに通い、ゼミに属し、就活を始めるのだろう、と思っていました。ところが息子は、ゼミに属さず、単位充足だけで卒業すると言い、結局は今年度、ほとんど WEB 授業しか選択しなかったらしく、三田キャンパスへは、10 月時点で 2 ～ 3 回しか行ってないらしいのです。ママ友の話で、「うちは WEB 授業だからって、春休みから 9 月まで帰省してたよ。」とか聞くと、ますます不安な気持ちに襲われます。じゃあうちの息子は、一体何をしてるんだ？　部屋にこもって、たった一人で。

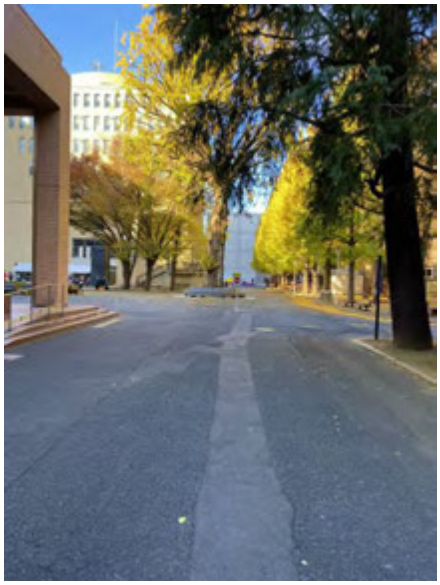
義母の葬儀が済んだら、息子はすぐに上京、自分の部屋へと戻って行きました。私は実家へ、義父は施設へ。翌晩、義父も体調を崩し入院、その後回復して転院、今は面会禁止ですが、まもなく施設に戻る見込み。病院・高齢者・施設・東京、、、今後も様々な制約に翻弄されます。特に辛いのは、人数制限と移動制限、本人確認でしょうか？

数日後、息子から LINE で、「WEB 三田祭の CM 動画に出てるよ。」と連絡がありました。

本番の配信は、ユーチューブの三田祭公式アカウントで、三田祭当日 11/22～となっていて、私はそれを楽しみに待っていました。

すると今度は、実父の容体が急変、主治医から呼出し、今後の段取りやらの親族への連絡など、予断を許さない時期に、WEB 三田祭が重なってしまいました。実家関係の決定事項として、県外在住者には後日連絡になったので、息子には実父の急変は伝えないままでした。

この写真は、三田祭当日の三田キャンパス内を写したものだそうです。



その頃、ネット上では着々と LIVE 配信の準備がされていました。もちろん、息子の出番はこちら。もしよかったら、見てやってください。(まだ見れるはず！)

https://youtu.be/lXDwUM6pvXs

数日後、実父にこの演奏を聞かせたら、奇跡的に意識が戻り、命の危機は脱したようです。

近況をまとめている間に、12 月になりました。結局息子は、WEB 三田祭のあちこちに登場していました。最後は、在宅のまま、仲間と音楽をやっている図です。昨年の三田祭テーマソングを奏でたバンドの助っ人として出てました。他にも、息子は高校時代の同級生とも音楽を楽しんでいます。リモートだったり、しっかり対策して、演奏したり。どういう手法であれ、仲間(友人)と繋がっているのはいいなあ、と思っています。

ところで、お勉強は？　大学生のニュースと聞くと、休学・中退の文字が並んでいます。息子曰く、テスト一発勝負で成績(単位)を決めてきたが、リモート授業になると、毎回のように課題が出て、レポート提出することが増え、いい加減にできなくて大変なんだよ、とのこと。でも、息子にとっては、集中して時間が取れるいい時期・環境なのだと、親バカな私はそう思うことにしました。

http://Youtu.be/G-cG0XkoN0s

推しメンは息子!!
それが今の私の癒しです。息子のおかげで、なんとか乗り切れそうな感じがしている今日この頃です。

世界情勢私見

楢原　宏明　　平成２８年（２０１６年）文卒

2020 年 11 月 18 日現在、私は塾講師として受験生に過去問の指導などを行っている。政府による不毛な高大接続改革、その失敗を経て、受験生と教育現場の人々を大きく混乱させたが、誰も責任を取らず、新政権でも前文部科学大臣がそのまま居座っている、というのはどうかと思うが。

ゆとり教育を実施した頃から日本の教育政策は迷走してきた。一つの帰結として、学力の上位層と下位層の間に大きな分断が生まれた。上位層は益々難化している首都圏の私大や難関国立大学を志し勉学するが、下位層はそもそも一般入試そのものに太刀打ちできない。

それでも推薦やＡＯ入試などにより一応の大学生にはなれている。これに関しては、経営難に苦しむ私立大学と、苦学を回避したい受験生と、双方の思惑が一致してのことだろう。現代では、この学力の格差が家庭の収入の格差を反映していることが多い。日本の成長を支えた豊かな中間層は影を潜め、私を含め教育従事者も格差を再生産する一員になっている。

無論、この分断は教育、そして日本だけの問題ではなく、地球規模で進行中で、資本主義の構造そのものに由来するのだろう。冷戦が終わり地球の大部分で社会主義の国が無くなったことで、効率主義、競争原理に歯止めが効かなくなったことも一因と考えられる。

米ソの冷戦は過去のことだが、今は米中が新冷戦の様相を呈している。これは軍事、経済の覇権をかけた戦いだけではなく、自由主義対全体主義という価値観の対立でもある。チャーチルは「民主主義は最悪の政治形態らしい。ただし、これまでに試みられたすべての形態を別にすれば、の話であるが。」と言ったが、なるほど、日本を含め昨今の民主主義は行き詰っている。

しかし、今世界に蔓延しつつある全体主義はもっと危険だ。全体主義的な考えが世界に広まりつつあるのは、それが最も効率よく国の経済を発展させるからであろう。みんなの意見を聞き、一人ひとりの幸せを考えていては、熾烈な国家間の競争に負けてしまうという考えが根底にあると思われる。突き詰めると、効率主義は個人の幸せのためではなく、全体の発展のために機能するのだ。しかし、時代のスピードは速く、どの国もこの戦いから降りることができないでいる。

コロナ禍はまだ終息の気配を見せないが、日本では第一波の時ほどの混乱、自粛はなく、経済とのバランスをとりながらウイルスとの共存の最適解を模索している。思えば 2011 年、日本は大震災の試練に見舞われたが、あれから本質的に、社会は何が変わっただろうか。しかし、この度のパンデミックはそうではない。経済はまた上向き、そして落ちていくが、世界はもう元には戻らない。

漱石は『道草』において、「世の中に片付くなんてものは殆どありゃしない。一遍起こった事は何時までも続くのさ。ただ色々な形に変わるから、他(ひと)にも自分にも解らなくなるだけの事さ」と書いたが、我々自身もまた、不断にアップデートを繰り返して新しい世界に適応していく他ない。

◎ あれから１年経ちました

写真を整理していると、ちょうど１年前の写真を見つけました。
皆さま、いかがお過ごしですか？

昨年 11 月末、会報「みやじま」57 号の印刷・製本・発送作業を行った後に撮った写真です。作業中は、河村さんもおられたのですが、残念ながら直帰された直後です。　今の状況が収まって、また諸先輩方にお会いできる日を楽しみにしています。　（ 小林 ）

人生は塞翁が馬

迫田　　勲　　昭和４３年（１９６８年）法卒

新型コロナウイルスによる各種会議やイベントの中止、自粛に終活を兼ね、離れ部屋を改修し中の本や各種資料、家具類などを大方整理した。

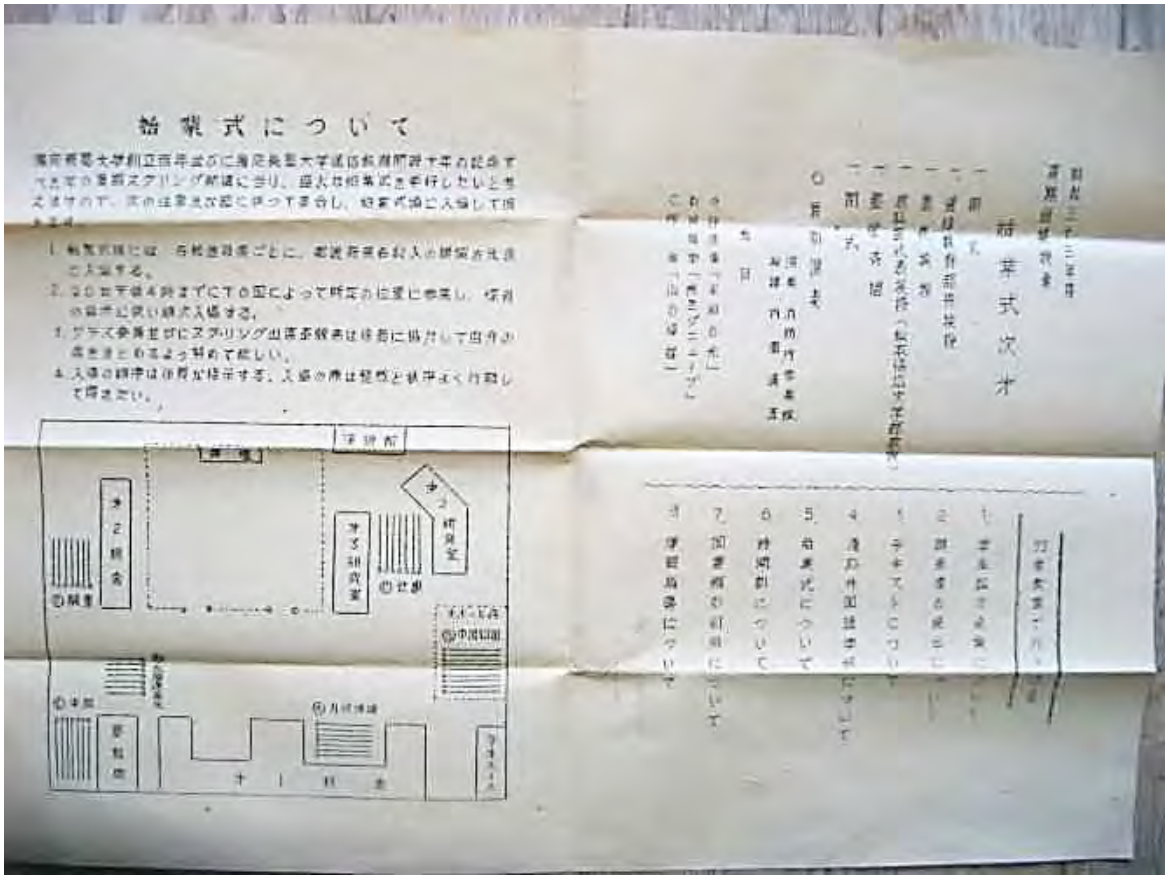
本棚の引き出しの中に塾在学時（昭和３３年以降）のテキストや課題のレポート、成績、各種案内資料などが纏めて保管してあった。その中に東京外国語大学の「一次選抜通知書（受験表）」と日本育英会の「予約採用決定通知書」のハガキを発見した（写真）。高校時代、英語が少しばかり得意で将来は外交官を夢見ていたため、英語の先生と相談し東京外国語大学（英米学科）を志望校と決め手続をしていた。そして経済面で日本育英会の奨学金を希望していた。当時は合格後の奨学金貸与を保証する制度があったようだ。高校時代同大を目指して猛勉強していた。

しかし、受験勉強のため、お腹がチクチク痛むのを堪えていたが、ついに耐えられなくなり１月下旬入院、お腹を１０ｃｍ位切って洗浄する７時間に及び大手術（盲腸が破裂）となった。全身麻酔ではなく、足が動かないよう親が抑え手術、ジリジリと切る音が聞えていたのを覚えている。後１日遅れたら命に関わっていたと、後から医師から聞いた。昭和３０年代の田舎の医者、しかし腕が良かったのであろう、あれから６０数年経った今もこうして元気でいる。約１ケ月間入院、その後も自宅静養や通院で３月頃までかかり、東京まで行って受験する自信や体力がなく、断腸の思いで受験は断念した。春頃気力や体力が回復、今まで頑張ってきたエネルギーを何かにぶっつけたく、悶々としていた時、通信教育のことを新聞で知り、司法試験などで有名と聞いていた中央大学の法科の願書を取り寄せ、記入して行くうち、法学部に法律学科しかないことが分かり、断念、急遽政治学科のある慶應の願書を取り寄せ入学手続きをした。このように私の青春は大切な時、紆余曲折、波乱万丈であった。

あのまま、順調に東京外大を受験していたら（多分不合格であったろうが）違う人生になっていたであろう。受験前の入院の不遇で志望校を受験できなかったことで慶應に入ることになった。今になって見れば伝統ある慶應で学ぶことができ、三田会で多くの塾員と知り合い、今の豊かな人生に恵まれ、良かったと思っている。人生何が幸いするか、分からない。

自慢話になったかも知れないが、私の不遇であった事が結果的には慶應に縁ができ良かった、と言うことを伝えたいと思って６０年前のことを紹介した次第である。今の失敗を悲観する必要なない。反対に、今の成功に浮かれることも戒めたい。人生は将に「塞翁が馬」である。

東京外国語大学受験表と日本育英会予約採用決定通知書



昭和３３年塾始業式案内状

尚、私が入学した昭和３３年は塾創立１００年、通信教育開設１０年の記念すべき年のスクーリング開講式で盛大に挙行したいと、ガリバン擦りの案内状（写真）に記されている。

これによると、始業式は、三田キャンパスの広場の真ん中の演壇を囲み、①九州・沖縄、②中国・四国、③近畿 ④北海道・東北、⑤中部、⑥関東、の６グループに分かれ、通信教育部長、塾長、教職員代表挨拶、塾歌斉唱、そして消防庁音楽隊による特別演奏が行われた。真夏 7 月の炎天下で初めて塾歌を歌ったのを懐かしく思い出している。最近は体育館の室内で行われるが、隔世の感がある。

（近況）

広島に産まれ、僅かながら原爆体験をした者の使命として広島市が行っている被爆体験伝承研修を３年間受け「被爆体験伝者」として認定、委嘱された。今月平和学習で広島市を訪れた宮崎県延岡市立中学校生徒に初めて講話した。

今、ＮＰＯ法人で行っている空き家バンク運営による地区活性化と共に、これらの活動を人生最後のご奉公と思っている。リハビリと体力維持に、週１～２回、スポーツセンタープールに通い、今年は 11 月までに 81 回、水泳約 60ｋｍ、水中歩行約 100ｋｍまで行った。

おかげで元気で農作業などをして、気分転換と自然や農の喜びを感じながら「生かされていることに感謝」をモットーに暮らしている。

Wash!! 洗っちゃえ!!

・・・ん？　なこたあないわっ!!　大いに笑っていただけると幸いです。

黒犬は、トイプードルの「ルル」10 歳、生きてます、動いてます。白犬は、製作途中のぬいぐるみの頭部です。　今夏に予定されていた結婚式のプレゼント用でしたが、無期延期となり、完成品は家に飾ってあります。当然、動きません！　　（ 小林 ）

[特別寄稿]　広島慶友会の近況と今思うこと

松岡　　和弘　　塾生（広島慶友会長）

これから本格的な冬に突入し、例年ならインフルエンザが流行し始める時期となります。さらに今年は、新型コロナウイルスの流行も懸念されており、広島県でも 46 名（12/3）と過去最高の感染者数を記録するなど、いわゆる第３波がやってきたのではないかと報告されています。皆様も健康管理にはくれぐれもご注意ください。

今年度の科目試験、その後の講演会は結局、４回とも実施が見送られ（代替レポート）、スクーリングやイベントも、ことごとくオンライン実施または中止に追い込まれました。そのおかげ(?)か、私としては今までなかなか通らなかった最後の１科目も単位を取得でき、残すは卒業論文だけ、というところまで来ました。会場で一発勝負というよりは、代替レポートで文献を参照しながら解答を作成する方が、私には向いていたのかもしれません。

広島慶友会においても、活動の制限を余儀なくされています。例会は中止が続いていましたが、さすがにずっと中止とするわけにもいかず、８月から webex を使ってオンラインで再開させています。しかしながら上手く接続がいかないなどトラブル続きで、参加会員全員が満足して使いこなせるようになるにはまだまだ時間がかかりそうです。

講師派遣についても、大学事務局がオンライン実施のもの以外受け付けない方針を取っております。ただ、オンライン実施の場合、参加会員のオンライン会議に対する習熟度がまだ不安なものであること、また zoom や webex などの会議用ソフトを長時間利用するには、月額固定費の負担が結構大きいので、残念ながら今年度は実施を見送ることとなりました。今後はオンライン例会を重ねて、オンラインへの抵抗感を減らし習熟度を高め、来年度は一度でもオンライン講師派遣が実施できれば、と考えています。

ここからは私の現在の所感ですが、このようにオンラインを用いて例会が実施できるのであれば、「広島」という括りが薄まるのではないかと思っています。これまでは、広島という地理的な縛りがあったからこそ、当会に興味を持って入会してくださる方が多かったのではないかと思いますが、オンラインであれば、全国どこにいても例会や講師派遣に参加できるわけですから、広島に住んでいるというのが当会を選択する理由にならなくなってくるのではないかと思うわけです。つまり、慶友会はさらに淘汰されてくるのではないのか、と。

現在、当会は 12 名在籍（ありがたいことにお試し入会の方が 3 名）していますが、全国で比べれば小規模慶友会の一つであり、このままでは会の維持が難しくなってくるのではないかと危惧しています。会を維持していくためには、他の慶友会では得られない何か（とはいっても大学の指針に抵触するようなことはできませんが）を生み出す必要があります。その「何か」って何でしょうか？

今後は卒論テーマを考えながら、こちらのテーマも取り組んでいく必要がありそうです。

編 集 後 記

今回の近況は、主として「新型コロナウイルスが、会員の皆さんの日々の暮らしや働き方に、どのように影響を及ぼしているか」について書いて頂きました。

このコロナウイルスは、感染者の飛沫やウイルスの接触により感染すると言われていることから、人口の多い東京や大阪・名古屋などの大都市に、広島県内をみても広島市や福山市などに、感染者が多く発生していて、人口が少ない郡部には少ない傾向が見られるようです。

我が国は昭和３０年代からは始まった経済の高度成長期以降、農村部から大都市へと民族の大移動があり、今日の少子高齢化に伴い、農村の荒廃にも繋がったようですが、このコロナ禍を機に、都市から農村への人口移動（田園回帰）を促進する契機になるのではないかと思います。

情報通信網のデジタル化が、テレワークや暮らし改革の環境整備に拍車をかけています。そしてあらためて「幸せとは何か」について、考えてみたいと思います。

この１年、コロナの影響で皆さんにお会いする機会がありませんでしたが、どうぞお元気で新しい年をお迎え下さい。令和３年が良い年でありますように。

（ 迫田 ）

棚田の石垣を人が歩いている

棚田の稔り風景、遠方の山は牛頭山（689m）

慶應義塾大学　広島通信三田会報　みやじま　第５９号

発行　　広島通信三田会　会長　迫田　勲
編集　　広島通信三田会　幹事（広報担当）　小林節子
〒731-1171　広島市安佐北区安佐町小河内１４４８番地
Ｅ－mail　i-sakoda@h9.dion.ne.jp
発行　　２０２０年１２月１９日
会の HP　https://hiro-tu-mitakai.net